白馬村図書館等複合施設に関する有識者会議を設置しました

白馬村では、新しい図書館及び複合施設として備える機能について、村長の諮問に応じて調査・審議することを目的として、6月議会において「附属機関の設置等に関する条例」の一部を改正し、「白馬村図書館等複合施設に関する有識者会議」を設置しました。

9名の有識者を委員として委嘱し、8月30日（木曜日）に第1回の有識者会議を開催しましたので報告します。

有識者会議委員

（敬称略）

会長	副会長	委員						
図書館 糸賀 雅児 慶應義塾大学名誉教授	山岳 松沢 貞一 ㈱白馬館代表取締役社長	教育 奥田 純子 北陸大学 経済経営学部 マネジメント学科 助教	子育て 多田 千尋 NPO法人 芸術と遊び創造協会 理事長／東京おもちゃ美術館 館長	アート 岡田 勉 スパイラル／㈱クコール アートセンター シニアキュレーター	交通 大日方 悦夫 東日本旅客鉄道㈱ 長野支社 白馬駅長	ホール 中澤 宗幸 ㈱日本ヴァイオリン 創業者顧問	マンガ 山内 康裕 マンガナイト／レインボーバード合同会社 代表	検討委 冨山 正明 白馬村図書館施設検討委員会 委員長

第1回有識者会議の要旨

村長挨拶・委員自己紹介

初めに村を代表して村長が新図書館に対する想いを述べて挨拶し、その後、各委員がこれまでの取組等も含めて自己紹介を行いました。

会長・副会長の選任

図書館に関する豊富な知見を有していることから、会長に糸賀雅児氏が選任され、副会長は会長の指名により地元を代表する形で松沢貞一氏が選任されました。

会議資料の説明

白馬村の概要、図書館に関するこれまでの検討経過、今後のスケジュール、白馬村の公共施設の耐用年数等について、配布資料を基に事務局から説明しました。

また、基本構想策定業務を委託している（一社）日本カルチャーデザイン研究所から、今年度の検討方針について説明されました。

＊会議資料は行政ホームページに掲載しています。

意見交換（要旨）

- 「図書館」という言葉だけで、敷居が高くなり入館しづらさを感じる人もいる。これまでに拾い上げた意見を見ると交流を望むものが多く、そもそも「図書館をつくる」という意識から抜け出して、「本がたくさんある交流センター」や「みんなが読書をしているカフェ」など、違った切り口から検討してみても良いのではないか。
- 目的は施設をつくることではない。開館後のソフト事業や情報発信力などが求められる。図書を揃えて来館者を待つのではなく、多文化・多様性を活かしたり観光客を巻き込んだりして、何かを誘致したりお金を引き出す仕組みも検討すべきだと思う。
- 最近の図書館は、静かな読書施設・学習施設ではなく、商業施設などが入り、乳児連れや小中学生から高齢者まで幅広い世代が集える交流施設が多くなっている。白馬の資源を際立たせて、国内外の人たちが交流できる白馬らしい空間を目指したい。
- 親子のコミュニケーションの場としてマンガは有効なツールであり、来館の敷居を下げることにつながる。
- 民間の参入も含めて収益事業を取り入れ、運営費を賄える仕組みづくりも考える必要があるのではないか。
- 村内の小中学校、白馬高校の図書室との連携についても併せて検討したい。
- 検討委員会で出された「ケルン」という言葉には、「迷わずに進める」という意味や、人が集うという想いが込められていて、暮らしの道標、人生の道標として「街中のケルン」という考え方はおもしろいと思う。

第2回の有識者会議は、10月25日（木曜日）の午後1時30分から白馬村役場2階201会議室で開催します。

庁内で他の公共施設との複合化の可能性を検討した資料や、検討委員会の報告書、ワークショップの結果等を材料として、規模や候補地、財源等について議論を深めていく予定です。

傍聴を希望される方は、前日までに白馬村役場総務課までお申し込みください。

新しい図書館等複合施設に関するご意見・ご提案も随時お受けいたします。

お問合せ　白馬村役場総務課　電話:0261-72-7002

司書に訊く。

文／佐藤一石（集落支援員）

糸氏 志信

一奮起して資格を取得。勉強は大変でしたが、楽しかった！至らないことばかりで申し訳ありませんが、鍛えると思ってお付き合いを。お願いします。

松沢 由美子

初めての図書館での仕事は小学校の図書委員でした。そして村での仕事が10年。本の整理が好きだった、あの頃の気持ちを忘れずにいたいです。

さわやかな静寂の空間にページをめくる紙音がささやく。エントランスが開く音と共に来館者と挨拶を交わす2人の図書館司書。白馬村図書館の日常が始まる。連載『図書館等複合施設建設に向けた検討』第2弾のテーマは「司書に訊く」。白馬村図書事情の現場、光と影を知る司書の〝生の声〟を。

図書館司書とは？

糸氏「司書の仕事は、利用者さんが必要とする情報を探して手元へお届けする、人と本をつなぐことだと思っています。大げさかもしれませんが・笑」

松沢「例えば……とある利用者さんが、白馬の中学に湯川秀樹さんが来校したときの文献と写真を探している、と。データを検索し、記憶の書庫をのぞき、あれやこれや探します。万が一手元になかった場合は県立図書館のデータへアクセスしたり。できる限りのことはやってみます」

記憶に残る出来事はありますか？

糸氏「以前、徳本上人の石碑が飯田の南原墓地に1基あるはずだけど見当たらない。所在を教えてください、という方が来館されました。松沢さんが村内在住の識者に尋ねると、道路を挟んだ向かい側に移転されていたのです。すると数か月後。また同じ目的の方が。前回の方とは縁もゆかりもない。そんな偶然が。でもそのときはすぐに答えることができました。利用者さんの質問に育てられています」

松沢「何か面白いの教えて、ってふらりと顔見知りの人が来館されたり。以前は非日常的な出来事が、今では日常の挨拶みたいになって・笑」

白馬村図書館ならではの個性、いい点を教えてください？

松沢「観光村ならでは、かもしれませんが白馬村図書館は短期滞在者の来館がとても多いという特徴がありますね。本来は住民票のある方、通勤通学の方でなければ図書カードをつくることはできませんが、1カ月程度の滞在でも図書カード発行が可能なのです」

糸氏「白馬は多様性を誇る村です。日常的に海外の方のご利用もあります。また一方では松沢さんのお話のとおり、地元の利用者さんとの距離感がとても近いです。読書傾向が把握でき、お好みの書籍を薦めることも。毎日が楽しいです」

松沢「概ね午前中は静かに過ごせる空間です。そして書籍の予約回転率が速い。繁忙期でも10人程ですから」

糸氏「読書好きの人が多いですね。頻繁に北アルプス連携自立圏・図書館相互利用サービスを活用している方もいらっしゃいます」

悪い点は？

松沢「もっと広い空間と図書費予算が欲しい！」

糸氏「もっと欧文表記の書籍が欲しい！」

白馬村図書館の未来像について？

松沢「施設の斬新さとかではなく、継続的・持続的サービスを提供可能な図書館になってもらいたい。昨今、メディアでは極端に注目を集める事象が信用される傾向があります。盛り上がる勢いは速くパワーもすごい。でもマンパワーの変化などであっという間に衰退してしまうのは残念なことだと思います。信州人の気質でしょうか？私は大きな変化に消極的なのかも……」

糸氏「10年、20年と住民と図書館が共に成長できる施設になってほしい。初めてこの図書館に来たときは小さくて暗い感じがしました。けれど今ではとても居心地のいい憩いの場所だと感じています。情報を求めに来館された方が白馬から情報発信する。閲覧の目的はないけれど、ふっと深呼吸するために椅子に座る。そんな〝ほっと〟する空間になってほしいです」

インタビューを終えて、ふと館内に目をやると窓際の机に向かいページをめくりペンを走らせる利用者がいた。柔らかい陽光が彼女を包んでいる。司書たちがやさしさ溢れるまなざしでほほ笑んだ（了）。